

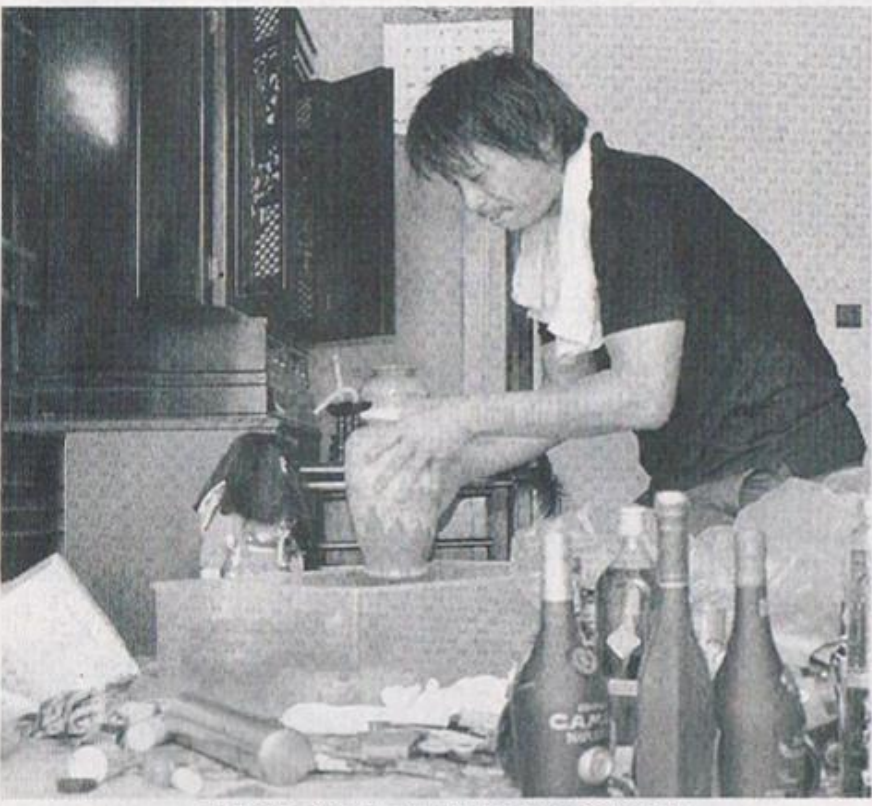
遺品整理士「遺族に安心を」

被災家屋整理も引き受け

仙台の鳥谷部さん

亡くなった人の遺品を仕分ける「遺品整理業」への関心が広がる中、仙台市青葉区の鳥谷部剛明さん(35)は、民間資格「遺品整理士」を県内で初めて取得し、営業している。この資格は、孤独死が増える中、遺品整理を巡るトラブルも少なくないため、業界の健全化のために作られた。鳥谷部さんは「依頼主の笑顔がやがいがい」と語る。

今月上旬、祖父(当時90 男性(31)が、家族だけでは(歳)をこくした加美町内の 片付けきれないと、祖父宅



手際良く遺品を整理する鳥谷部さん (8日、加美町で) —鈴木絵里奈撮影

の整理を鳥谷部さんに依頼した。2階建ての家屋からはタンスや電化製品、毛布などが手際良く運び出され、約3時間で2フロアック3台が満杯となった。男性は「一つ一つが思い出の品。でも、それを振り返ってはいつまでも整理できないので、お願いして良かった」と、部屋から出てきた写真を見つめた。

鳥谷部さんは一昨年の冬、テレビで遺品整理専門業者についての特集番組を見て、遺品整理業に興味を持った。孤独死が増える中、「遺族に感謝される仕事をしよう」と昨年3月、遺品整理の専門会社を開業した。

遺品整理士の資格は、社団法人「遺品整理士認定協会」(北海道千歳市)が認定する。同協会は昨年9月、遺品整理を巡る高額請求や不法投棄などの問題を解決するため、業者間でルールを設けることを目的に設立された。

鳥谷部さんは「震災後の

混乱に乗じ、がれきの中に遺品を捨てる悪徳業者もいる」という話を聞き、「適切な知識を身につけ、依頼主に安心感を与えよう」と、今年1月に資格を取得した。

主な仕事は、遺族だけでは困難な故人の部屋の片づけを手伝うこと。①現金や通帳など必ず遺族に返すもの②遺品を形見分けにするもの③リサイクルに回すもの④処分するもの——に仕分ける。日記など近親者に見られたくないと思われるものは、こっそり処分することもある。「遺族の後ろには故人がいる、という意識を忘れないようにするこ

とが大切」と語る。遺品だけでなく、震災で住めなくなった家屋の整理を頼まれることもある。鳥谷部さんは「思い出のたくさん詰まった品は人と人をつないでくれる。ものだけでなく、気持ちを整理するお手伝いができればうれしい」と話す。